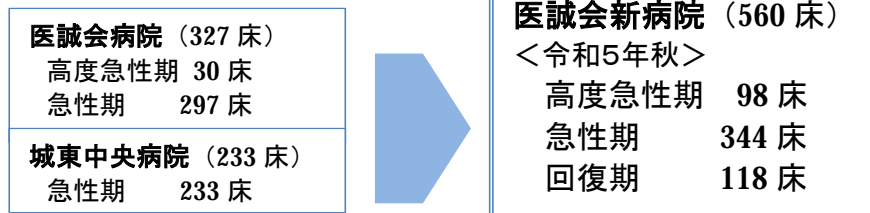


医誠会新病院について

1 概要

医誠会病院（東淀川区）と城東中央病院（城東区）を統合し、北区に新病院を設置するとして医療法人医誠会の計画については、過剰病床への転換等により、令和2年度の大阪府大阪市保健医療連絡協議会（以下、「協議会」という。）において継続協議となった。

今年度の協議会（令和4年1月27日）において、新病院の病床転換等の再検討状況を確認したところ、将来の病床機能については変更がなかったため、協議会としては同計画に合意できず、引き続き、継続協議とすることとなった。



2 主な経緯

令和2年1月	令和元年度・協議会	地区医師会と医誠会で調整の場を持つようにとの意見 <継続協議>
令和2年11月	調整の場 (医誠会、関連する地区の病院、医師会等)	過剰病床への転換、小児周産期医療、回復期機能と入院基本料の関係、医師などの人材確保など意見交換が行われたが、病院の統合・移転そのものに対する反対意見が出されるなど、医誠会の説明に対し出席者の理解は得られず
令和3年2月	令和2年度・協議会 (医誠会が出席)	過剰病床への転換を含む医誠会の計画は合意できず、継続協議とする。また、大阪府医療審議会に報告の上、協議すること <継続協議>
令和3年3月	医療審議会	過剰病床への転換や回復期機能と入院基本料の関係等により、反対意見が出されるとともに、大阪府に対し、医誠会に計画の再検討を要請するよう要望が出された
令和3年4月	大阪府知事から文書発出	医療審議会の協議を踏まえ、大阪府知事から新病院の病床機能の再検討等を要請
令和4年1月	協議会	医誠会の計画は前年と変更がないため、合意できず、継続協議とし、大阪府医療審議会に報告すること <継続協議>

3 主な意見

主な論点	意見	医誠会の回答
地域医療構想	大阪市は急性期病院が林立し、高度急性期・急性期の病床が既に過剰である。そこに過剰が見込まれる高度急性期をはじめとする病床が加わることは、地域医療構想に逆行する	大阪市外では急性期病院が減少傾向。将来的には、少し遠方からでも患者が来られるのではないかと考えている
小児・周産期医療	集約化という国の動きに反する	国の方針は承知しており、引き続き、検討する。しかし、大阪市内都心部では、分譲マンションの開発が進み、児童数が急増というニュースもあり、小児対応可能な医療機関の集約は、地域医療の面から市民にとって不便になることが危惧される
入院基本料と病床機能	急性期一般入院料1で回復期機能とするのは、整合性がとれない	例えば急性期の患者が術後に数週間入院する場合、回復期の機能として急性期一般入院料1で対応したい
人材確保	医師や看護婦等人材の確保はできるのか。新設の診療科は、人材が確保できても短期に運営していくのは難しい	採用専門部門を構築し、採用を進めている。新設予定の科については、体制など協議して議論を進めていきたい

4 今後の方針

引き続き、府からは、医誠会に対して新病院の病床機能等について再検討を求めていく。